

## 河川改修に力を尽くす

水害後、人々が途方に暮れる中で、河川改修に取り組んだ人がいます。地元にとって恩人です。香川県さぬき市の竹内熊太郎と愛媛県四国中央市の合田福太郎をご紹介します。

### ■鴨部川と竹内熊太郎（香川県さぬき市）

大正元年（1912）9月21日午後4時頃から23日午前5時頃まで、連続してどしゃ降りの豪雨となり、鴨部（かべ）川にかかる広瀬橋、乙井橋、地藏川橋、鴨庄橋などの橋が流され、川田、中空、西山、鳥田、尻切、川西、そうめんや土堤、小山土堤などが決壊しました。濁流が渦巻く中、鴨部、鴨庄では民家が流され、避難できなかつた人々は屋根にしがみついて救いを求めたと伝えられています。水位は、鴨部小学校で床上約1.5m、鴨庄小学校では1.8mに及んだとのこと。水害の後、かねてより鴨部川の改修に積極的だった鴨庄の素封家、竹内熊太郎は私財を投じて鴨部川の浚渫を行い、土手を築きました。死期迫る中、竹内は鴨部川改修費にと金4万円を寄付することを遺して、大正10年に亡くなりました。鴨庄橋東詰に頌徳碑が建立されています。〈志度町史編さん委員会編「新編志度町史下巻」1986年及び岡村信男著「志度風土記」1984年など〉



### ■関川と合田福太郎（愛媛県四国中央市）

明治32年（1899）8月28日、暴風雨が襲い、東予地方は洪水に見舞われました。死者は別子山で512人、国領川筋で100人、加茂川筋で51人に達しました。土居町（現四国中央市）では関川、西谷川、浦山川などの堤防が切れ、土居の北部、蕪崎の大部分、藤原の北部などが海のようになり、死者42人、田畑・家屋の流失などの被害が出ました。県は、復旧が困難なので、北海道への移住を奨励したほどでした。人々が路頭に迷う中で、合田福太郎は県会議員として関川改修工事を県に働きかけました。各地も水害を受けていたため改修費の確保は困難な状況でしたが、合田の知謀胆力により関川の改修費が手当てされ、築堤工事は着工から5年で完了しました。八坂神社に関川改修復興記念碑が建立されています。〈土居町教育委員会編「土居町誌」1984年及び四国中央市教育委員会編「四国中央市のくらし第二版」2006年など〉

